

連翹 FORSYTHIAE FRUCTUS

(基原)

レンギョウ *Forsythia suspensa* Vahl又は *Forsythia viridissima* Lindley (*Oleaceae*)
の果実を乾燥したものの。¹⁾

(性状)

本品はさく果で、卵円形～長卵円形を呈し、長さ1.5～2.5cm、幅0.5～1cmである。先端はとがり、基部に果柄を残存するものがある。縦みぞに沿って裂開したものは先端がそり返る。裂開した果皮の内面は黄褐色で、中央に隔壁がある。種子は細長い長だ円形で、長さ0.5～0.7cm、通例翼がある。本品は弱いにおいがあり、味はない。¹⁾

庭木として植栽されている落葉小低木で、早春に葉に先だって多数の黄色い花をつけ、Golden-Bellと呼ばれている。

(産地)

多くは栽培され、中国(山西、江南、陝西、山東、甘肅、湖北などの各省)に産する。¹³⁾レンギョウ *Forsythia suspensa* 又はシナレンギョウ *Forsythia viridissima* として知られ、我が国の年間輸入量は約8トンである。

北朝鮮、韓国にもチョウセンレンギョウ *Forsythia koreana* を産するが、正品連翹の代用品であり、品質が劣る。²⁾

(品質)

新鮮で黄色味を帯び、大きくて果皮が厚く、軸がなく、香気が強いものが良品とされている。¹³⁾また、よく乾燥していて開裂しておらず、表面に斑点がないものが良品である。

両片に離れていない新しい大粒の褐色のものがよい。小さい物や、暗色のものはいけない。袋込ならば種子の沢山混じっているものはいけない。¹⁵⁾

(成分)

トリテルペノイドoleanolic acid¹³⁾

リグナンarctigenin リグナン配糖体arctiin

フラボノイドrutin、quercitrin カフェー酸配糖体 アルコール類

フェノール化合物 forsythin (黄色ブドウ状球菌、赤痢菌に対して抗菌性を有する)

抗菌性成分としてレンギョウの葉からforsythosideAが、チョウセンレンギョウの茎からforsythosideBが単離されている。

(現代薬理)

①かなり強い抗菌作用があり、チフス菌、大腸菌、赤痢菌、緑膿菌などのグラム陰性菌および黄色ブドウ球菌、 α 、 β 溶血連鎖球菌、肺炎双球菌、百日咳桿菌などのグラム陽性菌に対して活性がある。その本態はフェノール化合物forsytholである²⁾。

連翹の煎液は試験管内で結核菌の生長を抑制する。

②インフルエンザウイルスに対して抗ウイルス作用を示す²⁾。

③抗炎症作用があり、毛細血管の透過性を抑制し、特に炎症部位の毛細血管を強化して、浸出液の分泌を減少させる。これらの作用が皮膚炎に効果を与え、止痒作用を有する。

④サイクリックAMP加水分解酵素、ホスホジエステラーゼ阻害作用がある。活性成分として(+)-pinorsinol, (+)-pinoresinol- β -D-glucosideを得ている。

⑤ハトにおいてジギタリスによる催吐作用を抑制し嘔吐回数を減少させる。またイヌにapomorphineを投与して生ずる嘔吐を抑制することからその鎮吐作用は延髄の催吐の抑制によるものと推定される。

⑥強心・利尿作用 oleanolic acidによる。

⑦メタノールエキスはラット十二指腸内投与で胆汁分泌の促進作用がある。

⑧抗アレルギー作用としては、アルコールエキスはモルモットのアナフィラキシーメディエーターを抑制する。

(古典的薬効・薬能)

薬味：苦 薬性：微寒 帰経：心・胆

消炎、利尿、排膿、解毒薬として腫瘍の炎症、皮膚病などに応用する。瘡家の聖薬ともいわれ癰腫の結熱を散ずるといわれた。また鎮痛、鎮嘔、通経の効がある。今は主として後世方の処方配合される⁶⁾。

神農本草経(下品)：悪寒と発熱を伴う寒熱病や、リンパ腺腫のような鼠瘻とか瘰癧の病や、たちの悪いはれものの癰腫や、たちの悪い皮膚病の悪瘡や、味下のリンパ腺腫のようなえい瘤の病や、1ヶ所に熱が結集した結熱の病や、虫を用いたまじないの蠱毒にあてられた病を直す。¹³⁾

用薬法象：諸経の血結、気聚を散じ、腫を消す。¹⁾

中医学：解表・清熱解毒・消腫

(その他)

○連翹は実証に用いる清熱解毒剤であり、癰やせつが自潰したあとは連翹を使用してはいけない。この時期は虚証になっていることが多いので一般には托裏法によって抵抗力を強める必要があり、苦寒の連翹を服用すると抵抗力を弱めるおそれがある。⁹⁾

○連翹を多量に服用すると食欲が低下する。²⁾

○連軛は連翹の根、連翹根であり、麻黄連軛赤小豆湯に配合されている。

○花を乾燥した連翹花を1回量3gに熱湯を注いで滲出し、服用すると利尿、緩下、高血圧の予防によい

○小連翹はオトギリソウの全草を乾燥したもの²⁾。

○処方例としては

+金銀花・薄荷→銀翹散

+桑葉・菊花→桑菊飲

+山梔子・黄芩→涼膈散

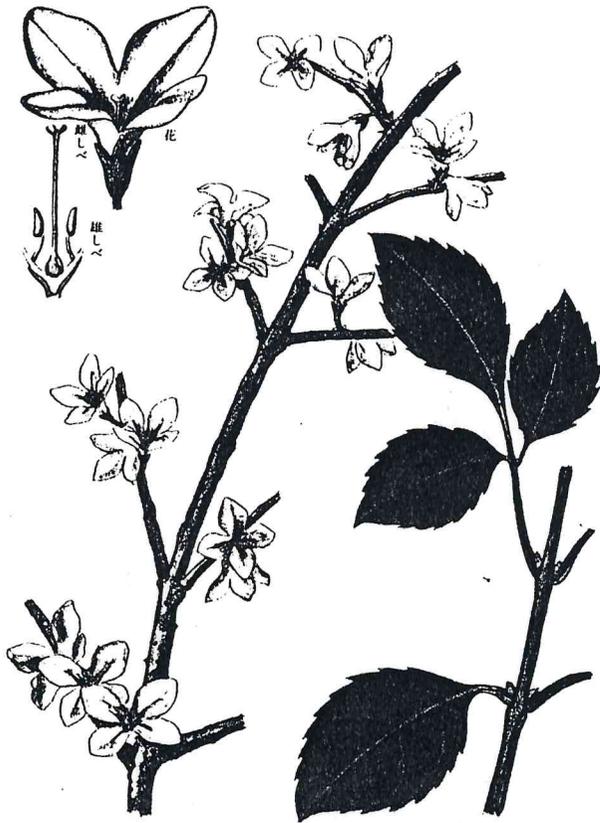
+荊芥・山梔子・柴胡→荊芥連翹湯

+防風・羌活→荊防敗毒散

+防風・白芷→清上防風湯

参考文献

- 1) 日本薬局方 第13改正
- 2) 和漢薬百科図鑑 難波恒雄著
- 3) ウチダ和漢薬勉強会資料 佐橋先生
- 4) ウチダ和漢薬生薬資料
- 5) 生薬ハンドブック ツムラ
- 6) 現代東洋医学
- 7) 漢方製剤の知識 薬事日報社 ツムラ JJSHP、VOL.21、NO.5(1985)
- 8) 新古方薬囊 荒木性次 方術信和会
- 9) 漢薬の臨床応用 神戸中医学研究会
- 10) 薬徴・類聚方広義 西山英雄 創元社
- 11) 本草備要
- 12) 神農本草経 森立之 昭文堂
- 13) 意釈神農本草経 小曾戸丈夫 築地書館
- 14) 和漢薬物学 大塚恭男 南山堂
- 15) 和漢薬の良否鑑別法及調整方、一色直太郎、谷口書店、pp136



(牧野1943)

薬用部分：果実

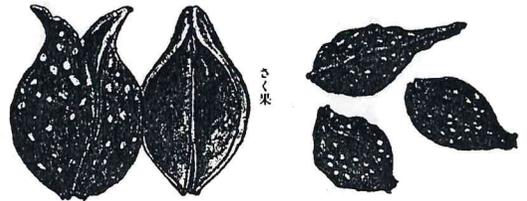


740. レンギョウ [レンギョウ属]
Forsythia suspensa (Thunb.) Vahl (もくせい科)

(連翹)

【分布】中国の原産で、庭園樹として広く日本各地で植栽されている落葉小低木。【形態】ややつる性で枝は伸長し、淡黄褐色で髄は中空。葉は対生し、卵形から卵状楕円形で鋭頭、長さ4~8cm、鋭き歯縁でしばしば一部が羽状3出に複生する。花期は3~4月。雌雄異株で葉の展開前にえき芽に黄色花を単生する。さく果は卵形で長さ約1.5cm。【薬用部分】果実(連翹(レンギョウ)⑤)。夏に成熟直前の果実を採集し、茶褐色になるまで日干しにする。【成分】果実にトリテルペノイドのオレアノール酸、モノテルペン配糖体のフォルシチド、フォルシチドメチルエステル、リグナンのアルクチン、マタイレシノサイド、花にクエルセチン、ルチン、アスコルビン酸などを含む。【薬効と薬理】連翹はチフス菌、ペラチフス菌、大腸菌、緑膿菌などのグラム陰性菌、ブドウ球菌、 α 、 β -溶血連鎖球菌、肺炎双球菌、百日咳桿菌などのグラム陽性菌に対して強い抗菌作用があり、煎液は試験管内で結核菌の生長を抑制するという報告もある。またオレアノール酸に強心利尿作用がある。消炎、利尿、排膿、解毒薬として、吹出物、疥癬などの皮膚疾患、腫瘍性炎症、高血圧の予防などに用いられる。【用法】排膿、利尿などに連翹1日量3~5gに200mlの水を加え、半量になるまで煎じつめ、3回に分けて服用する。また花を日干しにしたものを1回量3gに熱湯を注いで飲むと利尿、緩下、高血圧の予防によいといわれる。【その他】各種の漢方処方にも広く用いられる。

薬用部分：果実



741. シナレンギョウ [レンギョウ属]
Forsythia viridissima Lindl. (もくせい科)

(支那連翹)(英)Greenstem Forsythia

【分布】中国東部原産の落葉低木。【形態】高さ3mに達し、新梢は明らかに4稜形を帯び、夏の間は緑色で、冬には濃褐色になる。枝は直立してやや太い。葉は長楕円形~皮針形で両端とがる。通常単葉であるが、若い長枝には3裂した葉をつけることがある。花期は4~5月。葉えきに鮮黄色でやや緑色を帯びる花を1~3個ずつ下垂してひらく。【薬用部分】果実(連翹(レンギョウ))。晩夏か初秋のころ、成熟して茶褐色になった果実をとり天日で乾燥したもの。【成分】果実からオレアノール酸。葉には酸糖体フィリリン、ウルソール酸、花と花粉からルチンが見出されている。【薬効】消炎、解毒、利尿、腫瘍のほか高血圧の予防によい。【用法】1回量3~5gを水200mlで半量にまで煎じ、3回に分けて服用する。【その他】生薬の連翹としては、通常レンギョウ *F. suspensa* (Thunb.) Vahl が用いられ、シナレンギョウを代用品として混ぜて使うことがある。韓国では連翹の代用品として、チョウセンレンギョウ *F. koreana* Nakai を使用することがある。チョウセンレンギョウは早春に朝鮮半島の山を彩るが、日本にも入って庭木として広く栽培されている。枝の髄は節、節間ともに膜質である。往々シナレンギョウと混同される。小形の花が多数ついた枝が乱れる様子は美しい。高さ2m以上、枝は四角形、葉は単生または3裂、もしくは3片の複葉。花は雌雄異株で単生する。日当りのよい場所を好む。

